

## 8月定例記者会見の概要

1 日時 令和元年8月5日(月)9時30分～10時30分

2 場所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
NHK 南相馬報道室(南相馬記者クラブ会員)  
河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
毎日新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
読売新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
福島民報社南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)  
福島民友新聞社相双支社(南相馬記者クラブ会員)  
みなみそうまチャンネル

計 8 社

< 市側 >

市長 林副市長 松浦副市長 教育長  
小高区役所長 鹿島区役所長 総務部長 復興企画部長  
市民生活部長 健康福祉部長 こども未来部長  
経済部長 経済部中目理事 建設部長  
総合病院事務部長 教育委員会事務局長

計 16 人

(司会進行)秘書課長  
(会議記録)秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

皆様おはようございます。

本日はお集まりいただきありがとうございます。

それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。

はじめに、前回の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

まず、交通体系に関する話題について2件お伝えします。

1件目は、福島県鉄道活性化対策協議会と常磐線活性化対策協議会で要望しておりますJR常磐線の直通の特急列車の運行再開についてです。

7月5日にJR東日本から、2019年度末までの常磐線全線再開に合わせて、東京都内と仙台を結ぶ特急列車の運行再開が発表されました。

今回の特急列車の運行再開により、避難指示区域の住民の帰還や、福島ロボットテストフィールドの活用、家族が再会するためなど、様々な効果が期待できます。

運行再開に向けて多くの方々にご尽力いただきました。国土交通大臣、復興副大臣をはじめとした関係省庁の皆様へこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

続いて2件目は、本市と東京を結ぶ新たな高速バス路線の運行開始についてです。

7月18日に、東北アクセス株式会社が南相馬と東京を結ぶ直通便の運行を開始しました。

東京へ向かう新たな移動手段として、市民の皆様の選択肢となることを期待しています。

続いて、海開きについてです。

7月20日、台風等の影響もあり、不安定な天気となりましたが、無事に海開きの式典を執り行うことができました。

また、サーフィン大会など様々なイベントが行われ、最終的な来場者の入込数は約4,300人でした。

海水浴場は8月18日まで開設していますので、市民の皆様には、ぜひ北泉海水浴場にお越しいただきたいと思います。

続いて、今年度の相馬野馬追の執行結果についてです。

7月27日から29日の3日間で開催しました。熱中症等の対応が増加したものの、観覧されたお客様をはじめ、関係者の方々の大きなトラブルもなく、無事に相馬野馬追を執行することができました。

改めて、関係者の方々へお礼申し上げます次第であります。

今年度の実績ですが、出場頭数は395騎、観光客の入込数は、昨年度中止となった盆踊りパレードが開催されたことから、3万2,000人増の16万3,200人となっています。

詳細については、のちほど経済部長より説明させていただきます。

続いて、海外及び国内研修の話題について3件お伝えします。

まずは、ペンドルトン派遣団の訪問についてです。

7月16日から30日まではペンドルトン市から南相馬市にお越しいただきました。8月2日には、本市からペンドルトン市へ向かう派遣団の出発式が行われ、8月7日から20日の日程で派遣をいたします。

次に、小学生の鹿児島県瀬戸内町派遣についてです。

7月24日に瀬戸内町へ派遣となる小学生4名の出発式を行いました。

4泊5日の日程となっており、今日の2時半から帰着報告が行われる予定です。

次に、中学生海外研修についてです。

8月2日にオーストラリア海外研修に向けた出発式を行いました。

今回の研修は3泊5日の日程となっており、明日帰国予定となっており、今頃は個別のホームステイを終え、再会し、全員で取り組む研修を行う日程となっています。

どの研修も夏休み期間を利用した短期間の研修、派遣でございますが、参加した生徒達がぜひ多くのことを学んで、持ち帰ってきて欲しいと思います。

続いて、小高区の店舗再開についてです。

8月1日に小高区の老舗菓子店である松月堂が再開しました。  
再開に合わせて、福島県ロボットテストフィールドのロゴマークを使用した新商品「相馬野馬追焼」も販売が開始されました。  
小高区内の商業活性化が更に進むことを期待します。

次に、今後の予定についてご報告申し上げます。

まずは、看護師等合同就職面接会についてです。

8月11日に、市内医療機関合同の就職面接会を開催します。  
事前申込不要ですので、医療機関への就職を検討されている方はぜひご参加いただければと思います。

詳細については、のちほど健康福祉部長から説明させていただきます。

続いて、福島県企業立地セミナーについてです。

8月21日に、東京都で福島県企業立地セミナーが開催されます。  
このセミナーは福島県が開催するもので、首都圏の企業に対して、県内の各市町村における立地環境や優位性などを説明し、企業誘致を推進することを目的としています。  
今年度から各市町村長がショートプレゼンテーションを行うというプログラムが加わり、私も出席した上でプレゼンを行う予定です。

続いて、海外派遣及び研修の報告会について2件改めてお伝えします。

8月23日ですが、ペンドルトン市派遣団の帰国報告が行われます。  
次に、9月1日ですが、中学生海外研修に参加した生徒達による研修報告会が行われます。場所は原町生涯学習センターを予定しています。

続いて、各区の夏祭りについてです。

日付順で紹介しますと、8月11日には鹿島区「なつかしまつり」、12日には小高区「2019おだか夏祭り」、14日には原町区「市民盆踊り大会」が開催されます。

また、市で把握している夏祭りの一覧を資料の別紙として付けていますので、のちほどご覧ください。

## 【各部からの報告】

- 小高区役所
  - ・小高区夏祭りについて
- 鹿島区役所
  - ・「なつ・かし・まつり」の実施について
- 健康福祉部
  - ・看護師等合同就職面接会の開催について
- 経済部
  - ・令和元年度 相馬野馬追執行実績について

## 【質疑応答】

質問 1 :

相馬野馬追の実績について、本祭りとお行列の観覧者数がそれぞれ2,000人減となっていますが、要因はどのようなところにあったとお考えでしょうか。また、来年以降、観覧者数を伸ばすための取り組みとして何かお考えでしょうか

回答 1 : 経済部長

例年ですと団体席5,000席が埋まりますが、今年は4,000席しか埋まりませんでした。この結果について、大手旅行会社に照会したところ、東北の夏祭りの出足が総じて低調であったと聞いており、ゴールデンウィークの10連休が影響していたのではないかと聞いております。

また、来年度の観客数増に向けた取り組みについてですが、大手旅行会社からは、来年2020年は東京オリンピックの年であることから、対策を取らないと大幅な減少に繋がる可能性があるかと危惧する声をいただいているところです。

相馬野馬追執行委員会としても相馬野馬追も終わったことから、観客を増加させるべく様々な手立てを検討してまいりたいと思います。

回答 1 補足 : 市長

2020年はオリンピックと相馬野馬追の時期が重なります。オリンピックのブームに乗って観光客、ツアー客が本市へお出でいただければ良いですが、ブームに乗れなかった場合、観光客の減少が懸念されます。そのため、早め早めの対応を行っていくことが重要であると考えています。

また、今後の相馬野馬追に向けて3つほど話したいと思います。

1点目は外国人対応も含めた入込客についてです。団体客の対応は時期的には今から着手しても早過ぎるということは無く、むしろ遅いかもしれません。早め早めの対応が必要であると考えています。

次に2点目です。出場騎馬数が400騎を実績で割りこんだことを受けて、新たに相馬野馬追に参加する人をどうやって掘り起こしていくかということを真剣に考える時期になってきたのだと考えています。

最後の3点目として安全対策です。今年度、大きな事故はありませんでしたが、壊れている埒<sup>らち</sup>や施設の老朽化、猛暑における安全対策が今後も必要と考えています。今年度は、騎馬の講習会で技術向上の取り組みを行い、施設の改修も行いましたが、こうした取り組みは今後も継続して行っていきたいと思っています。

以上3点を踏まえ、次年度に向けて反省点を見出して対応してまいりたいと思います。

質問2：

東京オリンピック聖火リレーのセレブレーション会場として雲雀ヶ原祭場が決まっているかと思いますが、相馬野馬追と共同で何か取り組まれるお考えはありますか。

回答2：市長

ぜひコラボレーションしたいと考えていますが、オリンピック関係のイベントは、事前協議をしっかりと行う必要がありますので、もう少しお時間をいただきたいと思います。

相馬野馬追の祭場で行うイベントですので、しっかりとした対応を行いたいと思います。

質問3：

出場騎馬が300騎台になったという話でしたが、震災後の出場騎馬の推移を教えてください。また、減少となった要因としては何があったとお考えでしょうか。

回答3：経済部長

震災前の10年間は470～490騎で推移していましたが、震災があった平成23年は規模縮小しながらであったことから82騎、平成24年は386騎、平成25年以降は大体420～440騎で推移しておりました。

今回それを大きく下回る395騎となったわけですが、騎馬会会長に調査を依頼したところ、要因としては大きく3つあるとのこと。

まずは、相馬野馬追が抱える構造的な問題です。野馬追関係者の減少、参加者の高齢化、参加方法が複雑で分かり辛いことなどが挙げられます。

2点目として、金銭的な問題もあります。馬、馬具、武具などは高額となっており、全て自己負担となっていることが挙げられます。

最後に環境的な問題です。これは日頃練馬する場所や、馬を預ける厩舎などの不足が挙げられます。

今後は騎馬会に属している若手や今年初陣を飾った騎馬武者に直接ヒアリングをするとともに、市民の方からもご意見等いただきながら出場騎馬数の拡大に向けた対策を進めていきたいと考えています。

質問4：

遠方から来ていただいたお客様にいかに楽しく見ていただくかということが重要だと思いますが、祭場の上から見たとき、神旗争奪戦や甲冑競馬は分かり辛いと思います。昔は観覧席の反対側に大型スクリーンがあったと聞いていますが、来ていただいた人に分かりやすく見てもらうための工夫をしてはどうでしょうか。

また、行列の騎馬の前を横切ってはいけないという決まりがありますが、7、8人は渡っているようでした。例えばある郷の行列が終わった後に渡らせるなど柔軟に対応いただくのはどうでしょうか。

回答4：市長

入場料をいただいでご覧いただいておりますが、観覧席は場所が豊富ではなく、

条件も悪いです。そうした中で、スクリーンの設置についてですが、鹿島ではスクリーンを設けていると聞いていますので、雲雀ヶ原祭場地への設置についてもご提言を参考にさせていただきたいと思います。また、せっかくドローンもありますので、リアルタイムでドローンからの映像を見ていただくなど色々と考えて、皆様が「お金を払って、見て良かった」と言っていただけ環境作りを進めていきたいと思えます。

次に、お行列の横断についてです。お行列の間隔については、相馬野馬追の中での決まり事となっており、騎馬と騎馬の間隔は1馬身半、郷と郷の間隔は電柱1本分とするように間隔が空かないように調整しています。その甲斐もあり、今年の甲冑競馬はほぼ時間通りに開始することが出来ました。

ただ、お行列の間隔が空いてしまうと、横断する人が出てきてしまいます。

このことを「認めた方がいいのではないか」というご意見ですので、伝統と現実の狭間で難しいところとなりますが、執行委員会や保存会等々と議論してまいりたいと思えます。

質問5：

海開きに関連してですが、海に行っても人が少ないという声が聞かれます。今現在でどの程度の入込数となっているのか、また、震災前の9年前と比較してどのようになっているのかお伺いしたいと思います。

また、今後の集客に向けて、ソフト面とハード面について検討していることがあれば、教えていただきたいと思えます。

震災前はお風呂があったり、バーベキューが出来たり、テントが張れたりしていたと聞いていますが、来年に向けてそういったものを増やしたり、整備したりする予定等はあるのでしょうか。

回答5：経済部長

海水浴客の入込数は8月4日時点、16日間で1万5,115人となっています。

震災前との比較ですが、2010年の累計数で比較しますと18日間で2万4,600人となっていましたので、震災前の6割程度は来ていただいていると考えています。

最終的な入込数としては、震災前の最終的な入込数であった8万4,805人の3割程度の2万8,200人を目指して、取り組んでいるところです。

次にソフト面の話ですが、今進めているのは屋台についてです。

震災前と比べると利用客が少ないということもあり、屋台を出店する方も苦慮していたというところがあります。そういった中で利用客からアルコールを置いて欲しいという要望があったことから、先週末より販売する手筈を整えて、ニーズに応じているところです。

今後のイベントについてはこの場でお答えできませんが、お盆期間中に業務を担っているNPOで何等かのイベントを考えていると聞いています。

回答5：建設部長

ハード面については、防災集団移転で買い取った土地も含めて、土地の有効利用を考えており、キャンプ場、バーベキューハウスなども含めて、北泉全体の計画の見直しを進めています。

来年すぐの対応は難しいかもしれませんが、今後もそういった計画を進めて参りたいと考えております。